

関西いのちの電話広報誌

No.105号 2000年7月1日発行

見出し案内

* ふた組の「子どもと母」関西いのちの電話理事長酒井哲雄

* 特集電話を通して社会の今を見る

* 共感ってなに？(8)「そのまま受け取る」(長尾文雄)

* 相談員ノート「ありがとう」はどこから生まれるの？35期M・N

* 自然に学ぶ蠅

ふた組の「子どもと母」関西いのちの電話理事長酒井哲雄

ある日、地下鉄の階段を降りようとする、前方に母親と子どもがいっしょに降りているのに気がついた。長い階段で、しかもその子どもにとっては、少々高すぎるようであった。母親と子どもは、手をつないで、ゆっくりゆっくり歩いている。通り過ぎて、振り返ってみると、若い母親であった。その母親にとっては、子どもを抱えて、さっさと歩いていくほうが、はるかに楽であったらうと思うのだが、忍耐強く子どもの歩調に合わせ、何か話しながら、一歩、一歩、歩いている。何となく気になって、もう一度振り返ると、ようやく階段を降りきって、子どもが母親の手から離れ、小走りに走りだすところであった。またある日、駅ホームの待合室で、子どもと母親とが一生懸命しゃべっていた。友達、歌や、お弁当のこと等、話していた。母親は、おっとりとした口調で「うん、うん」「あっ、そう」「そりゃよかったねえ」と、もっぱら聞き役に徹していた。又、「それで、そのあとどうしたの？」と短く聞き返したりもした。そうすると、子どもはますます得意になって、話しを続けていた。最近、たまたまこのふた組の「子どもと母」に出会った。ほのぼのとした光景を見て、久しぶりにほっとする思いであった。子どもは、自分自身の足で歩き、母親は子どもの歩調に合わせて歩く。子どもが伝えようとしていることを、目を見ながら、うなずき聴いている。生活の中で子どもの人格が認められ、生かされ守られていることがよく分かる。未来ある子どもたちの健やかな成長を祈りたい。…

特集 電話を通して社会の今を見る

少年によるショッキングな事件が、初夏の日本列島を震撼させている。近年、凶悪犯罪の低年齢化については問題になっており、少年法の改正まで論議されているが、その対策については専門家等から様々な指摘はされているものの、確かな回答は今もってなされていないのが現状である。また、事件となって報道されるのは氷山の一角であり、予備軍を含め心に不安や鬱憤を抱えている子供達は多いと思われる。「関西いのちの電話」でも、10年程前から青少年からの相談件数は減少しているが、現実に行っている事件などを考える時、むしろ問題は重層・深刻化していると思われる。そこで「電話を通して社会の今を見る」として、受信内容の分析結果の中から青少年に焦点を当て、その背景を探りたい。そして、青少年の世界に何が起きているのか、また孤独な彼らの心に寄り添うために私達としてできることは何なのかを探り、いのちの電話の役割を考えたい。

第1回孤独とむきあうこと中村慶子孤立を恐れる私たち私達が安定した、落ち着いた生活をする上で、良好な人間関係が大切であることは言うまでもない。しかしそれこそがすべてと過剰に意識するあまり、人間関係がうまくとれなければ何か欠陥があるように受けとめる社会の風潮に息苦しさや、危なっかしさを感じているのは私だけではないだろう。そういう思いとも重なって、最近の一連の犯罪報道のあり方について「健全さを押しつける社会」と題したイ・ヨンスク氏の時評(朝日新聞5月16日付)は、とても興味深いものであった。その一部を紹介すると、他人とのコミュニケーションがうまくとれないことや、内気で閉じこもりがちなることを「性格のゆがみ」であるかのように伝える報道はどれほど多くの子どもたちを傷つけていることだろう。すべての人間が明るく朗らかに生きなければならないと考えることこそ、「健全さ」を押しつける管理社会の暴力となっているのではないだろうか。という指摘である。突然学校に行かなくなる子供たち、一人部屋に引きこもる子供たち、その時その時を面白おかしく過ごせればよいと考える若者たち、絶えず携帯電話で喋り続ける若者達に会う時、それは一人で独自の世界を生きる体験を味わえなかった結果ではないかと思えてならない。私達は、他人から見捨てられ、一人ぼっちになることを恐れ、またそう見られることを恐れるあまり、形式的な希薄化した人間関係、ぶつかりあうことを避け、ほどほどに心地よい人間関係に流されてしまっていないだろうか、また徒に孤立感を深め過ぎてはいないだろうか。それでも私達は、親密な人間関係を求める一方で、一人になってほっとしたり、一人になってやっと自分を取り戻せたような気分になることをしばしば経験している。意識するしないにかかわらず、この二つのことをうまくバランスをとることによって、毎日を過ごしているのではないだろうか。ここでは、日頃は脇役的イメー

ジのある一人でいる意味、孤独のもつ意味について、考えを進めていきたいと思う。孤独は天才の学校「ローマ帝国衰亡史」の著者で、18世紀のイギリスの歴史学者エドワード・ギボンは「会話は理解を豊かにする。しかし孤独は天才の学校である」と述べている。古今東西をとわず、天才といわれている宗教家、学者、芸術家達は長い長い時間を一人で、思索や創作活動に費やしている。そして何か新しい発見をする瞬間、インスピレーションがわきあがる瞬間は一人でいる時ではないかと容易に想像がつく。しかも彼らは自らの創造したものや思索を通して、さらなる自己発見や主体性を構築しているのである。人間の文化の価値あるもの、人々を感動させ、人々の記憶に残るものは、孤独を通して創造されたものである。言いかえれば孤独は創造の源であるとも言えるだろう。私達にとっての孤独の意味孤独は一人ぼっちで、孤立無援の状態、不安や苦悩を連想させる。また、決して自分からは望まない。そうなってしまった、そうさせられてしまったという被害的な状態を連想させる。しかし最初に述べたように、私達は一人でいる安堵感も知っている。特別な才能に恵まれた一握りの天才にとって孤独は創造の源、学校であったとして、普通の人間である私達にとっては、どんな意味があるのだろうか。日本人は一般的には、自己形成の過程で、いかに人とうまくつきあうか、協調性を身につけるか、他人の立場に立って考えたり、感じたりできるか、を教えこまれてきていると言われている。集団の中でうまくやっていくこと、共生関係をつくることを第一とし、他との違いを意識する独自性は、その次のこととして組み込まれている。教育の場で「個性を尊重する」とか「自分で考える習慣を身につける」というような目標が語られるようになって久しいが、多発する「いじめ」や、それによって引き起こされる悲しい事件を知る時、いかにそれが難しいことであるか、そして同時にそれは私達的人格形成の過程と密接に関連していることを再認識するのである。「人とは違う」と孤立を恐れるあまり、私達は孤独と向きあうことを避けてはいないだろうか。「人とは違う」ことを恐れるあまり、私達は「私は私である」という独自性を表現することを避けてはいないだろうか。私達が真に「私は私である」という生き方を身につけたいとするならば、孤独と対峙することを恐れてはならない。「天才にとって孤独は創造の源」であるならば、「私達普通の人間にとって孤独は独自性の源である」とは言えないだろうか。孤独に対峙する場、言いかえれば「私は私」と独自性を押し出す場でもあるが、それはいつも身近なところにある。親しい友人の集まりの場で、理解されないことを恐れ、皆と違うことを恐れ、自分の考えや感じ方を伝えるのをためらう時がある。それでも思いきって話してみる。そのプロセスは、まさに孤独と向きあい、それを乗り越えようとしている瞬間ではないだろうか。また、私達いのちの電話の相談員は、コーラーと向きあい、自らの感じ方や考え方を問われ、一生懸命応答しようとしている時、知らず知らずのうちに孤独と対峙しているのである。そしてそのことが、コーラーの助けになっていることを知る時、孤独に光がさしてくる。孤立を恐れ、人と違うことを恐れ、自信を失い、寂しさを訴えるコーラーに、すぐに孤独の意味を語りかけることは難しい

かもしれない。しかし相談員である私達自身がその意味を問い直してみる時、コーラーの心の叫びが、またどんなふうに伝わってくるか、耳を傾けてゆきたい。

共感ってなに？(8)「そのまま受け取る」(長尾文雄)

私の友人が、軽い痴呆が始まった90歳を過ぎた実父の介護をはじめました。彼女の介護のエピソードを聞いて、援助活動での共感のあり方を教えられたのです。父親と教会に行く。教会堂の後ろに高齢者用に座りやすい席が設けられている。そこへ案内をしたのですが、あとから女性が入ってきたので、彼は彼女にその席を勧めます。その女性は、彼こそ、そこに座るのにふさわしいことを述べて、辞退。彼は頑として譲ることをやめない。辞退すればするほど、彼が意地になってくるのが見えてきました。そのとき彼女は、はっと気づいたかのように「そうね、ありがとう。座らせてもらいます」と言って、彼の申し出を受け入れました。実際に腰をかけ、しばらく間を置いてから、彼に向かって、「この席はとても座りやすいですわ。　　さん、ぜひ座ってください」と述べ、その席を勧めたのです。彼はていねいに礼を述べ、その席に座ることになったのです。そして、穏やかな顔をして、礼拝に臨んだのです。軽い痴呆には、その人のいままで身についた習慣があり、プライドがあります。相手の気持ちやプライドをまず、ていねいに受け取ること。相手が受け取ってもらえたと思ったら、相手もこちらからの応答を受け取る態勢ができるのです。前述の女性は、途中で気づいて、相手の好意を受け入れ、従い、そして次に相手にこちらの気持ちを伝え、提案をしたのです。このやりとりは電話相談の関係づくりのヒントになりませんか。

相談員ノート「ありがとう」はどこから生まれるの？35期M・N

「ありがとう」という言葉は、とても温かい響きを持って心に深く届く言葉だと感じることもある。去年、自分の気持ちに整理がつけられなくなって電話をしたときに、バイザーからもらった「電話して下さってありがとう」という言葉を、今も忘れない。本当は、(きっとわかってもらえる)という思いと「依存」という言葉に揺れて、電話をするのをずいぶんためらった。だけど、あの言葉を聞いた時、すべてが受け入れられたような気がした。「ありがとう」、その響きを心に残して、私はそれからずっと考えていた。(なぜ、先生が、「ありがとう」なんだろう...?)その後、CAPという活動の中で、再びあの言葉に出会った。「大人が子どもから相談を受けたときに伝えるべきこと」としてレジメに書かれていた言葉の一つに「話してくれてありがとう」というのがあり、(はっ)とした。あ

の時バイザーがくれた言葉と、この言葉が、私の中で重なった。二つの言葉を反芻しながら、その言葉の意味を考えてみた。(私は掛け手の人達に、「ありがとう」という言葉を返せるだろうか？どんな思いをそこに込めて、この言葉を口にできるだろう...)人への慈しみや愛の形を言葉にしたとき、きっと、それが「ありがとう」になるような気がした。まもなく私たち35期生の一年目の研修が終わり、友人が1人やめていった。彼女はある日、この活動をやめるに至ったあまりにも悲しい体験を、私に話してくれた。それまで個人的に話したことはなかった。最後の日、彼女へ向けた手紙に、一番伝えたい言葉を探してこう書いた。「私にいろいろ話してくれて、ありがとう」と。

自然に学ぶ蠅

真夏になると蒸し暑さに加え、多くの虫に悩まされることも多い。中でも蚊や蠅は最も身近で病原菌の媒体としてもいやがられる虫である。都市部では衛生面もかなり整備され、蚊も蠅も少なくなっているが、それでも撲滅に至ることはないであろう。否、撲滅することは地球上の生態系が重大な事態に陥ることと思う。蚊はさておき、蠅の場合、動植物の腐敗した物を早く処理する第一人者といえるのではないだろうか？海岸から高山地帯まで、どんな所でも腐敗臭があれば飛んできて卵(母胎から出たときは既にウジになっている)を産み付け、死骸の内側からどんどん食い尽くす。水分が充分にある間、次々に産み付けられ、すさまじい勢いで成長するウジは、地球の掃除屋と言うに相応しい。何処でもうるさがられる存在がかならずある。うるさいという言葉に「五月蠅」と当て字を使うことがあるが、蠅がうるさく飛びかうときは、必ず近くに腐敗臭を出す元があるはず、自分の内外を再検討する必要があるのではないだろうか。蠅などのいやな面にだけ目を向けず、効用に目を向ければ感謝の念すらわいてくる。我々の心の中にある腐敗した部分を掃除してくれるのは、うるさい蠅(?)かもしれない。毒を以って毒を制するという言葉のように。相談員K・T

- 相談電話受信件数 -

3月受信件数 1530件 相談員数(延)479人

4月受信件数 1667件 相談員数(延)514人

5月受信件数 1723件 相談員数(延)539人

ありがとうございましたM.Y様 10万円光野瑠璃様 10万円

季節の俳句 十三句会より 選者磯崎清

俳句では、夏祭のことを祭といいます。私の好きな高山祭は春祭、富山の風の盆は秋祭です。京都の賀茂祭(葵祭)はもとは、ただ祭といたしました。

斎王の紅ひきたてし葵かな 紀子 青大将話でっかくなりけり 英子

献血に夏やせの腕さしいだし 遊仙 ままごとの面にも映ゆる若葉かな 喜美子

初夏の風アメリカ村の茶髪にも洋史子

編集後記広報チームに新しい仲間が増え、新年度が動き出した。人は色々な感性、違った表現力を持って、それぞれに生きている。新しい仲間との出会いが玉手箱のようなきがする。S.S

社会福祉法人関西いのちの電話

〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里 3-1-72

TEL.06-6308-6868FAX.06-6308-6180

発行人酒井哲男

編集報編集チーム